

公明 神奈川区 トピックス

第63号

発行元：公明党神奈川支部
発行人：藤井しんすけ
竹内やすひろ

神奈川県議会で2月、5日間にわたり行われた「第一回定例会・本会議」において、22日、藤井しんすけ県議会議員が代表質問を行いました（写真）。はじめにライフサイエンス（生命科学）



関連産業を県と川崎市・横浜市が連携して進めている「国際戦略総合特区」に関していただきました。黒岩祐治県知事は、国際競争が激化するこの分野で県が発信地の役割を果たす

藤井しんすけ議員が代表質問 県議会第1回定例会・本会議

べく、産学公が一体となつて取り組んでいると報告。研究開発成果の産業化と、欧米アジア市場への進出を目指している」と述べました。

答えました。続いて議員は道路の安全対策について言及。実施中の県道巡回パトロールに加え、発見が困難なトンネル上部・路面下の点検の必要性を強調しました。

（2面に関連記事）

知事は調査列車の運行・乗車を通して、貨物と旅客併用化のメリットを実感したと話しました。

知事は、笹子トンネル事故を受けた一斉点検の結果も異常がなかったことを報告。路面下の「空洞」については国の補正予算が適用されたため、3年で600キロの調査と補修工事を進めると述べ、国交省の取り組みを評価しました。

次に「さがみロボット産業特区」について、高度な技術を持つ中小企業こそ発展を担う潜在力であると主張。県の支援を促しました。

このほか、県警本部長に対し、近年、二輪車および高齢者の交通事故件数が増加していることを尋ねると、「すり抜け走行」の危険性、反射材の着用を呼びかけたいと答弁がありました。

これに対して知事は、大企業と中小企業の提携を促進するとし、テーマに沿ったロボット開発に参加する企業を募集、技術の結集を図ると



神奈川県議会議員 藤井しんすけ
Tel. 441-0684 Fax. 441-0689



横浜市会議員 竹内やすひろ
Tel. 716-6822 Fax. 716-6823



3月5日の予算特別委員会にて



竹内市議会議員とミニ消防車

横浜市地震防災戦略 竹内やすひろ

横浜市では、「地震防災戦略」を策定。「被害を最小限に抑える」「発災時の混乱を抑え、市民の命を守る」「被災者の支援と早期復興を図る」という三つの基本目標を、今後10年間で達成していきます。

午後6時に元禄型関東地震が襲った場合、建物倒壊で1695人、火災延焼で1548人、津波浸水で13人、急傾斜崩壊で7人が亡くなり、火災に

よる焼失棟数は77700棟に上るとされています。この新たな被害想定を踏まえ、ミニ消防車の増車、初期消火箱や感震ブレーカーの設置を推進し、木造密集地域などの延焼火災対策を強化します。

また、老朽消火器の破裂事例があることから、予算特別委員会で廃消火器リサイクルの啓発を提言しました。

京浜臨海部の鉄道アクセス

〜東京・川崎・横浜の臨海部を結びます〜

東海道貨物線は、浜松町駅と小田原駅を結ぶJR東日本の貨物支線および複々線区間、南武線の貨物支線の通称です。その貨物支線のうち、鶴見駅から神奈川区の東高島駅を経由し桜木町駅を結ぶ鉄道路線に高島線があります。

この高島線が、東海道貨物支線貨客併用化の検討ルートに該当し実用化されると、新たな鉄道ネットワークを形成し、朝のピーク時を中心とした既存線の混雑緩和、災害時等のルート確保などが期待されます。

現状と整備後の所要時間、乗換回数を比較



東海道貨物支線貨客併用化整備検討協議会より抜粋